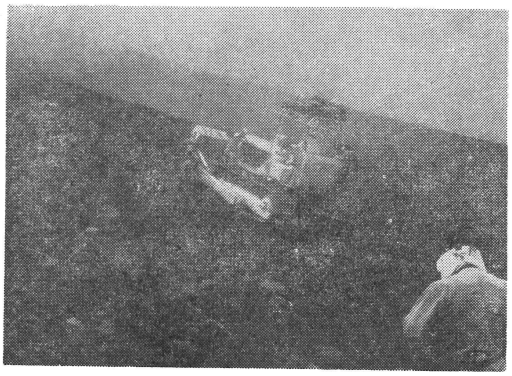
# 地方だより

テストを終えて帰着したヘリコプター

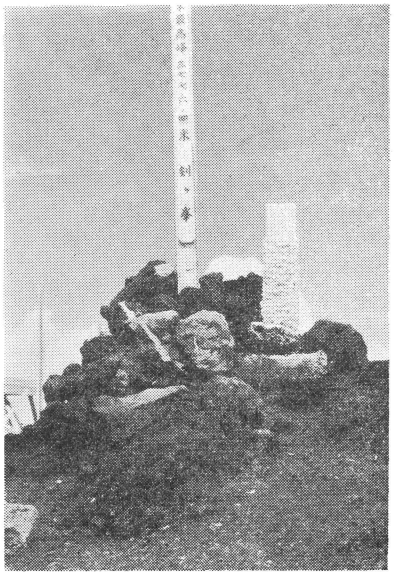
## 富士山測候所

富士山ではじめて気象観測が行なわれたのは明治20年9月のことで，その後の先人の数々の苦闘が実を結んで昭和7年7月には山頂に中央気象台富士山測候所が開設された．以来今日まで不休の観測が続けられ，世界でも数少ない山岳測候所の名門の一つに数えられている．高層観測の技術が発達していなかった当時から現在まで，当測候所が，わが国の気象事業に，あるいは気象学の進歩の上に果して来た役割は測り知れないものがあろう．近年は VHF の中継基地としても活躍しているが，この度，さらに山頂に大型気象レーダーが設置されることになり，自然の制約をうける短い工期でいそがしい工事がはじまった．このような大工事は富士山はじまって以来のことで，私達にとっても目下のところ最大の関心事である．これまで山頂への輸送の主役は馬と強力であったが，こん度はこれに代ってヘリコプターによる資材の運搬が開始され，陸路でもブルトーザーが7合8勺（約3200m）まで登ることに成功した．コンクリートも均質のものを作るため下界でミックスして，そのままヘリコプターで輸送することも計画されている．このように，技術の進歩の影響は神秘だった富士山頂にまでおよび，そのような情勢にともない当測候所の使命にも，さらには富士山をめぐる運搬機構にまで画期的な変革が行なわれようとしている．

（石田泰治　記）



6.5合目付近を登るブルトーザ



富士山頂三角点の標石